

浮かぶもの

空間に構築されてゐる あの
単純なパイプの組み合わせは
日にあたつて それぞれが輝いてゐます
底辺を形づくる四角形の支へてゐる あの
鋭角の 構築された立体のものは
空間にとどまつてゐます
偉大な空白を支へてゐる あのものは
構築されてゐるばかりではなくて
精神の豊かさを誇つてゐるやうにも見えるのです
ふみとどまることによつて 日月の氷遠の歩みを
示さうとしてゐるのかもしれない
底辺の平面は やや斜めに傾いてゐて
非常に重たいものをのせてゐます
しかし その重たいものは 透明です
澄みきつた青空はそのまますきとほつて
やはり澄みきつて見えます
そびえる山嶽は そのまますきとほつて
岩石の色は肌色に
森林の緑は深緑であり 若葉の色も交へてゐます
これは時間の経過によつて知ることが出来たのですが
暗黒の夜には 小さい星のかけらさへないのです
流星は傷つけてゐるやうな速力で
すうつと ふくらんだ曲線を描くのでした
何よりも 雷鳴は
攻撃的な 力動的な 瞬間的な
黒い雲と 千萬の雨滴と そのあとの
あるかなきかの七色の糸を
構築物の中心に ぐつと垂らし込むことによつて
さうしたことを證明しました
重たいものは あの
構築物の中にだけあるのだらうか
湧きおこる疑念は
我等の心の中の問題なのですが
それに答へるかのやうに
浮かぶものは さらに傾きを変へてみせることもするので